

一鞠 一楊弓 一樂 一郢曲依人々故辭無 一和漢五十韻 一和歌略 一七盃飲略 中酒

〔宣胤卿記〕永正十四年十月廿七日、中納言方人々來、楊弓云々、十五年七月七日、今日内裏和歌題
月前望二星、詩題禁庭巧夕、宣秀卿兩席共詠進之、各不持參、内々付甘露寺大納言、余得度以後不詠
進也、御人數者、御月次衆許也、及夜有御樂又於此亭大納言七種法樂、左金吾同中將四條、山科左少以下來、和
歌連歌一折、楊弓鞠花酒七瓶藁麵等也、

〔二水記〕大永六年十一月一日庚辰、午時參内、有御楊弓、入夜御盃儀如恒、

〔大館常興日記〕天文九年七月廿日、以晴光内々被尋下、今日近衛殿大覺寺殿など御參、右京兆も祇
候、御楊弓一獻在之、略昨日御楊弓一獻及深更云々、佐退出夜半過也云々、今日御人數、公方樣足

利義近衛殿大覺寺殿、一乘院殿、久我殿、藤中納言殿、右京大夫殿、其外御供衆少々、已下又進藤筑後
も同御人數也云々、廿一日、昨日御楊弓御矢、公方樣近衛殿御矢をば祐阿給之云々、其外御人數
矢をば歲阿松阿給之云々、奏者松平也、九月廿三日、佐攝州、豆州及夜陰重而各來臨、子細者今日
於勢州陽弓の會候に、朝倉右衛門大夫入道同參會候、就其本郷常州も其人數候て遊ゑん也、其樣
體共御耳に入て、本郷常陸介事生涯させられ候べき段被仰出之、まい、上意之趣、委細乍有存
知、如此働一段曲事由仰也、次伊勢守事も、朝倉右衛門大夫如此參會種々儀曲事候間御させつ也、
但伊勢守事は、かねて不被仰聞候條、さも候べき歟、然其上意分は、其隱あるまじき事にて候處、如
此段曲事之由仰也云々、次本郷常州は、今夜ちくてん也、

〔親俊日記〕天文十一年六月十日己丑、貴殿近衛殿へ御出之、終日御楊弓、廿八日丁未、藤中納言殿
楊弓、貴殿御出之、七月朔日己酉、貴殿無御出仕也、藤中納言殿御出楊弓在之、二日庚戌、粟津修
理楊弓砌御酒まいらする、貴殿御長太刀被遣之、廿四日壬申、朽木殿楊引粥在之、八月八日乙